

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生物学		
必修選択	必修	(学則表記)	生物学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「生物学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	生命の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・ 生体の構成要素である細胞の基本的構造と機能を習得する。 ・ 遺伝子および染色体の構造を説明できる。 ・ 恒常性を保つ仕組みのホルモン系と自律神経系を概説できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	喜多野 直子			実務経験	○
実務内容	医療機関にて病院栄養士として2年勤務した実務経験を基に、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	生命Ⅰ	生命とは何か/生命の誕生
2	生命Ⅱ	生命の変遷
3	組織と細胞Ⅰ	細胞をつくる物質/生命の単位～細胞
4	組織と細胞Ⅱ	細胞小器官/細胞の活動
5	組織と細胞Ⅲ	細胞の一生/単細胞生物と多細胞生物
6	組織と細胞Ⅳ	ヒトの組織/ヒトの器官
7	生殖	生殖の方法/減数分裂
8	遺伝と遺伝子Ⅰ	遺伝とその法則

9	遺伝と遺伝子Ⅱ	生命をつくる仕組み/遺伝子を働かせる仕組み
10	発生	発生の過程/発生の仕組み
11	刺激の受容と反応Ⅰ	感覚器について/神経系による刺激の伝達
12	刺激の受容と反応Ⅱ	中枢神経と末梢神経/反応と効果器
13	内部環境を保つ仕組みⅠ	体液とは/ホメオスタシス/体液と浸透圧/血液・リンパ液・組織液
14	内部環境を保つ仕組みⅡ	ホルモンとその働き/自律神経とホルモンの協調作用/生体防御
15	動物の行動と進化	生得的行動・習得的行動/ヒトの進化と未来

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	化学		
必修選択	必修	(学則表記)	化学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「化学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、化学の基礎知識を習得する。		
到達目標	・物質の構造および種類について概説できる。 ・化学反応について概説できる。 ・生命（ヒト）を構成する基本物質を列挙し、それぞれの構造、機能および代謝を説明できる。		
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	石川　達也	実務経験	○
実務内容	漢方薬局にて登録販売者として13年勤務した実務経験を基に、化学の基礎知識を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	物質とはⅠ	物質の分類/物質の構造/原子の電子配置
2	物質とはⅡ	元素の周期律/物質量/化学結合
3	気体とは	気体のルール/空気は何から/気体を使う（医療・生活への応用）
4	水溶液Ⅰ	水溶液の濃さの表し方/希薄水溶液の示す不思議な性質
5	水溶液Ⅱ	コロイド溶液とは/酸とアルカリの水溶液
6	酸化と還元	酸化、還元とは/金属のイオン化傾向
7	化学反応	化学反応とは/化学平衡とは
8	有機化合物Ⅰ	有機化合物とは/有機化合物の名称

9	有機化合物Ⅱ	有機化合物の構造/有機化合物の反応
10	有機化合物Ⅲ	代表的な化合物と性質/高分子化合物
11	ヒトをつくっているものⅠ	水について/ヒトを形づくる元素
12	ヒトをつくっているものⅡ	糖質
13	ヒトをつくっているものⅢ	アミノ酸とタンパク質
14	ヒトをつくっているものⅣ	脂質
15	ヒトをつくっているものⅤ	核酸と核酸関連物質

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療倫理		
必修選択	必修	(学則表記)	医療倫理		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	倫理問題に配慮して医療、歯科医療、研究を行うために、生命と医療に関わる倫理の重要性を理解する。				
到達目標	・ 歯科衛生士として医療倫理を学ぶ意義と必要性を説明できる。 ・ 生命の尊厳および患者の権利を説明できる。 ・ インフォームド・コンセント、セカンドオピニオンを説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	三好　香織			実務経験	○
実務内容	歯科衛生士として、大学病院やクリニックにて8年間勤務した実務経験を基に、生命と医療に関わる倫理の重要性を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯科衛生士と医療倫理	なぜ医療倫理を学ぶのか
2	医療従事者の心構え	医療従事者の基本的義務/患者中心の医療/歯科医療に関する権利と義務、および歯科衛生士の社会的使命
3	医の倫理に関する規範・国際規範	医療従事者の職業倫理/患者の権利/人を対象とする医学研究の倫理
4	バイオエシックス（生命倫理）Ⅰ	バイオエシックス(生命倫理)とは/バイオエシックス誕生の背景/バイオエシックスに関する国際規範
5	バイオエシックス（生命倫理）Ⅱ	バイオエシックスに関わる問題/臨床倫理学
6	インフォームド・コンセントⅠ	インフォームド・コンセントとは/インフォームド・コンセントの定義
7	インフォームド・コンセントⅡ	インフォームド・コンセントの実際①
8	インフォームド・コンセントⅢ	インフォームド・コンセントの実際②/インフォームド・コンセントと患者中心の医療

9	研究と医療倫理Ⅰ	研究と医療倫理の関わり/倫理的配慮の要件①
10	研究と医療倫理Ⅱ	倫理的配慮の要件②/研究への協力依頼
11	歯科医療倫理Ⅰ	医療現場における人の行動
12	歯科医療倫理Ⅱ	患者の行動
13	歯科医療倫理Ⅲ	歯科医療従事者の行動
14	歯科医療従事者Ⅰ	歯科医療従事者に必要とされること①: 患者情報の取り扱いについて/著作権について
15	歯科医療従事者Ⅱ	歯科医療従事者に必要とされること②: 臨床での問題/身だしなみの意義

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	英語Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	英語Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科英語」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。				
到達目標	・ 歯科衛生士として英語を学ぶ意義と必要性を説明できる。 ・ 医療現場において用いられる歯科英語の表現方法を学び、簡単な英語コミュニケーションができる。 ・ 人に対して臆せずに意思疎通を図ろうとする姿勢を身につける。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	英語Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大古　明美			実務経験	○
実務内容	客室乗務員として航空会社にて10年勤務した実務経験を基に、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	英語学習について	歯科衛生士として英語を学ぶ必要性/これまでの英語学習の振り返り/これからの英語学習法について
2	Making an Appointment by Telephone	電話での予約
3	Requests for Medicine	薬の依頼
4	Emergency Appointments	救急の予約
5	National Health Insurance	国民健康保険
6	Asking the Patient to Describe Symptoms	患者さんに症状を説明してもらう
7	Asking the Medical History	病歴をたずねる
8	Periodontal DiseaseⅠ	歯周病①

9	Periodontal Disease II	歯周病②
10	Pregnancy	妊娠
11	Why Do I Need a Cleaning?	なぜクリーニングが必要か
12	Informed Consent I	インフォームドコンセント①
13	Informed Consent II	インフォームドコンセント②
14	Sealants I	シーラント①
15	Sealants II	シーラント②

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	英語Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	英語Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科英語」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。				
到達目標	・医療現場において用いられる歯科英語を理解し、場面に応じて英語での対応ができる。 ・医療現場において用いられる歯科英語の表現方法を身につけ、歯科英語を用いたコミュニケーションができる。 ・外国人に対してより積極的に意思疎通を図ろうとする姿勢を身につける。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	英語Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大古　明美			実務経験	○
実務内容	客室乗務員として航空会社にて10年勤務した実務経験を基に、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	これまでの復習	これまでの歯科英語学習の振り返り
2	Fluoride Treatment	フッ素治療
3	Tooth Brushing Instructions for a Child	子どものための歯ブラシ指導
4	Tooth Brushing Instructions for an Adult	大人のための歯ブラシ指導
5	Postoperative Instructions to the Patientit I	患者さんへの診察後の指示①
6	Postoperative Instructions to the Patientit II	患者さんへの診察後の指示②
7	After Treatment	治療後
8	Visit to an American Dental Clinic I	米国の歯科診療所訪問①

9	Visit to an American Dental Clinic II	米国の歯科診療所訪問②
10	Important Vocabulary for Dental Hygienists I	歯科医療に携わる者/歯科学/検査/痛みの種類/全身疾患/歯科疾患/歯科治療
11	Important Vocabulary for Dental Hygienists II	歯の名称/部位の名称/口腔解剖用語/人体各部位
12	Important Vocabulary for Dental Hygienists III	歯科用頻出単語
13	Important Vocabulary for Dental Hygienists IV	患者さん向けの単語/子ども向けの単語
14	歯科衛生士の仕事とは I	歯科衛生士の仕事とは①
15	歯科衛生士の仕事とは II	歯科衛生士の仕事とは②

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	情報リテラシーⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	情報リテラシーⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	30時間でマスター Office2019 パソコン技能検定 対策問題集 3級 パソコン技能検定 模擬問題集 3級 パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 三幸学園 三幸学園 三幸学園

科目の基礎情報②

授業のねらい	タッチタイピングを習得し、早く正確な入力を身につける。 また、Word・Excelの操作などを習得し、実際の業務に役立つスキルを身につける。		
到達目標	パソコン技能検定3級で求められる文字数（350字/10分）を入力できる。 ビジネス文書の入力をスムーズに作成できる。		
評価基準	テスト60%、課題提出/平常点40%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	パソコン技能検定3級		
関連科目	情報リテラシーⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	榮田 隼	実務経験	○
実務内容	商工会議所パソコン教室にてインストラクターとして2年間勤務した実務経験を基に、早く正確な入力技術と実際の業務に役立つスキルを教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入・概要・タッチタイピング	授業のねらい・年間の授業予定等説明・検定について・タッチタイピングの方法と必要性について Windowsの基本操作・タッチタイピング（ホームポジション）の練習
2	タッチタイピング Wordの基礎・基本入力	タッチタイピング（上段/下段）の練習・入力問題実施 変換、文節区切りの変更、再変換、ファンクションキー、記号と特殊文字、手書き入力（IMEパッド）について
3	入力練習 ビジネス文書の基本	入カスピード練習（10分）、フォント、フォントサイズ、文字修飾、コピー、貼り付け、切り取りについて ビジネス文書の基本型と入力の仕方を学ぶ
4	表作成	入カスピード練習（10分） 表作成の説明について
5	文書作成①	入カスピード練習（10分） 文書作成問題練習
6	文書作成②	入カスピード練習（10分） 文書作成問題練習
7	文書作成③	入カスピード練習（10分） 文書作成問題練習

8	パソコンの知識①	入カスピード練習（10分） 学科問題に必要なパソコン知識の説明
9	パソコンの知識②	入カスピード練習（10分） コンピュータ関連知識の説明
10	テスト（Word）	入力問題・文書作成問題の実施
11	Excelの概要・データ入力	入カスピード練習（10分） Excelの初期画面、基本データ入力、オートフィル機能、罫線、四則計算について
12	Excel基本復習、基本的な関数	入カスピード練習（10分） Excel基本復習・SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照について
13	グラフ	入カスピード練習（10分） グラフの作成・グラフ要素について
14	表計算練習①	入カスピード練習（10分） 表作成問題練習
15	表計算練習②	入カスピード練習（10分） 表作成問題練習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	情報リテラシーⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	情報リテラシーⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	30時間でマスター Office2019 パソコン技能検定 対策問題集 3級 パソコン技能検定 模擬問題集 3級 パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 三幸学園 三幸学園 三幸学園

科目の基礎情報②

授業のねらい	タッチタイピングを習得し、早く正確な入力を身につける。 また、Word・Excelの操作などを習得し、実際の業務に役立つスキルを身につける。		
到達目標	パソコン技能検定3級レベルのWord、Excel操作ができる。 パソコン技能検定2級レベルの操作を行うことができる。 PowerPointの基本的な操作ができる。		
評価基準	テスト60%、課題提出/平常点40%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	パソコン技能検定 3 級		
関連科目	情報リテラシーⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	榮田 隼	実務経験	○
実務内容	商工会議所パソコン教室にてインストラクターとして2年間勤務した実務経験を基に、早く正確な入力技術と実際の業務に役立つスキルを教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	検定に向けて・前期復習	検定試験の実施手順・数式印刷の説明 入力問題、文書作成問題、表計算問題
2	パソコン検定3級対策①	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
3	パソコン検定3級対策②	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
4	パソコン検定3級対策③	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
5	パソコン検定3級対策④	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
6	パソコン検定3級対策⑤	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題
7	パソコン検定3級対策⑥	計測して練習 学科問題、入力問題、文書作成問題、表計算問題

8	Wordのいろいろな機能①	入カスピード練習（10分） 図形・ワードアート・画像について
9	Wordのいろいろな機能②	入カスピード練習（10分） 段組み、ドロップキャップ、割注について
10	Excelのいろいろな関数①	入カスピード練習（10分） COUNT、RANK.EQ、ROUND、IFについて
11	Excelのいろいろな機能②	入カスピード練習（10分） 条件付き書式、複合グラフについて
12	テスト（Excel）	入カスピード練習（10分） Excelの確認テスト・表計算問題練習
13	PowerPointの操作①	PowerPointについての基本操作について
14	PowerPointの操作②	画面切り替え、アニメーション、ハイパーリンクについて
15	PowerPoint作成	PowerPoint作成練習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	心理学		
必修選択	必修	(学則表記)	心理学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「心理学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	良好な対人関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。				
到達目標	・ パーソナリティの特徴を概説できる。 ・ 話し手と聞き手の役割を説明でき、適切にコミュニケーションできる。 ・ 対人関係に関わる心理的要因と行動および集団の中の人間関係を概説できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	井澤　正代			実務経験	○
実務内容	医療機関にて心療内科カウンセラーとして10年勤務した実務経験を基に、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	見る・聞く・感じるころ	知覚成立の基礎/知覚の体制化/知覚の諸相
2	学ぶ・覚えるころ	学習のプロセス/記憶のメカニズム/記憶の病理とゆがみ
3	やる気の心理	動機づけ/動機づけの分類/欲求
4	喜怒哀楽のころ	感情/フラストレーション/ストレス
5	その人らしさの心理	パーソナリティとは/パーソナリティの調べ方/パーソナリティの異常と障害
6	かしこさの心理	知能/知能の測定/知的能力障害（知的発達症）
7	考えるころ	思考とは/問題解決/創造性とは
8	発達するころ I	「発達」を考える/発達段階と発達課題/乳幼児期から児童期のころの発達

9	発達するところ II	青年期/成人期/高齢期
10	人と関わる心理	対人認知/帰属理論/対人魅力～好き・きらいの心理～
11	人と集うところ	集団の心理/リーダーシップ/社会的影響
12	健康的なところ	メンタルヘルス/心理臨床の対象/心理療法のいろいろ
13	カウンセリングのところ	カウンセリングとは/カウンセリング・マインド/ロジャーズの基本姿勢を取り入れた介入法
14	思いを伝え合うところ	医療コミュニケーションの基礎/コミュニケーション・スキル
15	心理学の歩みと研究法	心理学の歴史/心理学の研究法/心理学で用いる統計

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	解剖学		
必修選択	必修	(学則表記)	解剖学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	2	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能、組織・発生に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・人体の発生について、精子と卵子の発生から肺葉の形成および胎児の成長と発育までを概説できる。 ・骨格系における骨の構造と種類、運動器系における筋の種類と特徴を説明できる。 ・循環器系における脈管系の概要と心臓の構造と機能、神経系における神経系の基本構造と概説を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％ 小テスト：20％ 授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	口腔解剖学/組織発生学/生理学・口腔生理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柳澤 英明			実務経験	○
実務内容	歯科医院の院長として8年間勤務した実務経験を基に、体の構造と機能、組織・発生に関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	解剖学総論	解剖学の種類/人体の構成/人体の区分と名称/解剖学用語/体の方向用語/姿勢
2	細胞	細胞の構造と機能/細胞の一生
3	組織	上皮組織/支持組織
4	発生	染色体と減数分裂/精子と卵子の発生/受精と着床/肺葉の形成/胎児の成長と発育
5	骨格系	骨の機能/骨の形による分類/骨の基本構造/骨の連結/骨の発生/人体を構成する骨
6	筋と運動	筋の基本構造と機能/筋の形状と分類/体の各部位の骨格筋
7	消化・吸収	消化と吸収の概要/消化器の構造/口腔での消化/胃の機能/小腸の機能/大腸の機能
8	循環Ⅰ	脈管系の概要/血管の構造と機能/血液/心臓/循環の生理

9	循環Ⅱ	動脈系/静脈系/胎児の循環系/リンパ系
10	神経系Ⅰ	神経系の概要/神経系の基本構造/中枢神経系
11	神経系Ⅱ	脳脊髄膜（髄膜）/脳の血管/末梢神経系/神経系の主な伝導路
12	呼吸	呼吸とは/呼吸器系の構成/胸郭の構造と換気の仕組み
13	腎機能と排尿	腎臓の働き/泌尿器の構造/尿の生成/尿の一般的性質/膀胱からの排尿の仕組み（排尿反射）
14	内分泌	内分泌器官とホルモン/内分泌器官の構造と機能/歯・歯周組織・顎顔面とホルモン
15	生殖	生殖器/性周期/受精と妊娠/分娩と乳汁分泌/更年期

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生化学		
必修選択	必修	(学則表記)	生化学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	人体および口腔における生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、人体および口腔における物質の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・細胞内での代謝（エネルギー代謝・分解・合成）および糖質・脂質・タンパク質の代謝を説明できる。 ・歯の無機成分（ヒドロキシアパタイトを含む）および有機成分を説明できる。 ・う蝕と歯周疾患におけるデンタルプラークの関わりを説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	栄養学/生理学・口腔生理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	喜多野 直子			実務経験	○
実務内容	医療機関にて病院栄養士として2年勤務した実務経験を基に、人体および口腔における物質の代謝と機能に関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	人体の構成要素Ⅰ	生化学・口腔生化学とは/歯科衛生士が生化学・口腔生化学を学ぶ意義/細胞の役割
2	生体の構成要素Ⅱ	人体における水/人体構成成分の構造と種類
3	人体における化学反応	消化と吸収/酸素の運搬と二酸化炭素の排出/代謝
4	糖質、脂質、タンパク質の代謝Ⅰ	消化・吸収・代謝の全体像/糖質と脂質の代謝①
5	糖質、脂質、タンパク質の代謝Ⅱ	糖質と脂質の代謝②/タンパク質とアミノ酸の代謝
6	糖質、脂質、タンパク質代謝の相互関連 遺伝子とタンパク質合成	糖質・脂質・タンパク質代謝の相互関連/DNAと遺伝子/遺伝子の発現とタンパク質の合成
7	人体における恒常性の維持	恒常性（ホメオスタシス）とは・ホルモン系と自律神経系
8	歯と歯周病の生化学Ⅰ	歯と歯周組織/歯周組織の主成分としての結合組織

9	歯と歯周病の生化学Ⅱ	歯
10	硬組織の生化学Ⅰ	血清のカルシウムの恒常性とその調節機構/骨生成と石灰化のメカニズム
11	硬組織の生化学Ⅱ	骨吸収とモデリング/歯の脱灰と再石灰化
12	唾液の生化学	唾液の組成と機能
13	プラークの生化学Ⅰ	プラーク/プラークによるう蝕発生機構①
14	プラークの生化学Ⅱ	プラークによるう蝕発生機構②
15	プラークの生化学Ⅲ	プラークによる歯周病発生機構/プラークや舌苔による口臭発生機構/プラークと歯石

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	栄養学		
必修選択	必修	(学則表記)	栄養学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	2	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能3 栄養学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活を理解するために、栄養と食生活に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・健康の維持と増進に必要な栄養を概説できる。 ・食事摂取基準を説明できる。 ・各栄養素の種類と働きを概説できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	食生活・栄養指導/生化学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	喜多野　直子			実務経験	○
実務内容	医療機関にて病院栄養士として2年勤務した実務経験を基に、栄養と食生活に関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	栄養の概念Ⅰ	栄養の概念
2	栄養の概念Ⅱ	栄養と食生活の意義/歯科衛生士が栄養学を学ぶ意義
3	栄養素の種類とはたらきⅠ	糖質
4	栄養素の種類とはたらきⅡ	脂質
5	栄養素の種類とはたらきⅢ	タンパク質
6	栄養素の種類とはたらきⅣ	ビタミン
7	栄養素の種類とはたらきⅤ	ミネラル
8	栄養素の種類とはたらきⅥ	食物繊維

9	栄養素の種類とはたらきⅦ	水
10	栄養素の消化・吸収Ⅰ	消化・吸収と栄養/消化の種類/消化の過程①
11	栄養素の消化・吸収Ⅱ	消化の過程②
12	栄養素の消化・吸収Ⅲ	吸収のメカニズム/栄養素の体内動態/栄養素別の消化・吸収①
13	栄養素の消化・吸収Ⅳ	栄養素別の消化・吸収②
14	健康と栄養Ⅰ	食生活を取り巻く施策/日本人の食事摂取基準①
15	健康と栄養Ⅱ	日本人の食事摂取基準②/食品の安全

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	口腔解剖学		
必修選択	必修	(学則表記)	口腔解剖学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	2	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・顔面および口腔を構成する骨を概説できる。 ・頭頸部の筋の構成と機能、頭頸部の脈管と神経について概説できる。 ・永久歯および乳歯の形態学的特徴を列挙できる。				
評価基準	期末テスト：70％ 小テスト：20％ 授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	解剖学/組織発生学/生理学・口腔生理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柳澤 英明			実務経験	○
実務内容	歯科医院の院長として8年間勤務した実務経験を基に、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	口腔とその周囲の解剖学	口腔とは
2	口腔を構成する骨	頭蓋を構成する骨/口腔を構成する骨
3	頭頸部の筋と作用	顔面筋(表情筋)/咀嚼筋/舌筋/頸部の筋/顎下三角とオトガイ下三角/翼突下顎隙と翼突下顎縫線
4	顎関節 口腔周囲の脈管Ⅰ	骨/軟組織 動脈系
5	口腔周囲の脈管Ⅱ	静脈系/リンパ系
6	神経Ⅰ	三叉神経/顔面神経
7	神経Ⅱ	舌咽神経/迷走神経
8	神経Ⅲ	舌下神経/頭頸部に分布する脊髄神経/頭部の自律神経

9	唾液腺 咽頭と喉頭の構造	大唾液腺/小唾液腺 咽頭/喉頭/食道/嚥下に関与する筋群
10	歯の解剖学総論	歯の特徴と構造/歯の種類と名称/歯の数と歯の記号/方向用語/形態と機能
11	永久歯Ⅰ	永久歯の形態学的特徴（切歯・犬歯）
12	永久歯Ⅱ	永久歯の形態学的特徴（小臼歯・大臼歯）
13	乳歯	乳歯の形態学特徴（乳切歯・乳犬歯・乳臼歯）
14	歯の異常	歯数の異常/大きさの異常/歯の重複/歯冠の異常/歯根の異常/萌出異常
15	歯列と咬合	歯列/咬合

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	組織発生学		
必修選択	必修	(学則表記)	組織発生学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	口腔およびその周辺組織・歯の発生過程についての基本的知識を習得する。また、発生の過程を学ぶことで口腔領域の構造とその機能の理解を深め、さらに歯および歯周組織についての組織学的構造や機能についての基礎知識も習得する。				
到達目標	・歯および歯周組織のそれぞれの組織学的構造物を列挙し、説明できる。 ・顔面ならびに口腔の発生を概説できる。 ・歯と歯周組織の発生を概説できる。				
評価基準	期末テスト：70％ 小テスト：20％ 授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	解剖学/口腔解剖学/生理学・口腔生理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	醍醐 一也			実務経験	○
実務内容	救急クリニックで歯科医師として7年間勤務をした実務経験を基に、口腔とその周囲組織の構造や機能についての基礎知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯および歯周組織の構造と機能 エナメル質Ⅰ	エナメル質の概要と性状/エナメル質の構造
2	歯および歯周組織の構造と機能 エナメル質Ⅱ	エナメルに存在する構造物
3	歯および歯周組織の構造と機能 象牙質・歯髄複合体Ⅰ	象牙質・歯髄複合体の概要と機能/象牙質の構造
4	歯および歯周組織の構造と機能 象牙質・歯髄複合体Ⅱ	歯髄の構造/象牙質・歯髄複合体の加齢変化
5	歯および歯周組織の構造と機能 セメント質	セメント質の概要と分類・セメント質の構造
6	歯および歯周組織の構造と機能 歯根膜	歯根膜の概要と機能・歯根膜の構造
7	歯および歯周組織の構造と機能 歯槽骨	歯槽骨の概要と機能・歯槽骨の構造
8	歯および歯周組織の構造と機能 歯肉	歯肉の概要/歯肉の区分と歯槽粘膜/歯肉上皮/歯肉固有層

9	顔面と口腔の発生Ⅰ	鰓弓の形成/突起の形成と癒合
10	顔面と口腔の発生Ⅱ	口蓋の形成/舌の形成/腺の形成
11	歯と歯周組織の発生Ⅰ	先行歯の発生①：歯堤の形成/蕾状(結節)期歯胚・帽状期歯胚
12	歯と歯周組織の発生Ⅱ	先行歯の発生②：鐘状期歯胚
13	歯と歯周組織の発生Ⅲ	代生歯および加生歯の発生
14	歯と歯周組織の発生Ⅳ	歯の萌出
15	歯と歯周組織の発生Ⅴ	歯の脱落と交換/歯の萌出の臨床的考察

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生理学・口腔生理学		
必修選択	必修	(学則表記)	生理学・口腔生理学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	2	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ A:「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 B:「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、人体の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。また、顔面・口腔およびその周辺組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲の構造と機能に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・細胞の構造と機能、組織の定義を説明できる。 ・人体の構造・各器官について列挙し、基本構造と機能を概説できる。 ・歯および口腔における生理機能を列挙し、説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	解剖学/口腔解剖学/組織発生学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	萩　名子			実務経験	○
実務内容	公的機関内歯科診療室4年、一般開業医勤務医11年、自院14年勤務　歯科医師として歯科大学にて2年勤務した実務経験を基に、人体の代謝と機能、及び口腔とその周囲の構造と機能に関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	生理学とは 細胞と組織	内部環境とホメオスタシス 細胞の基本的生理機能
2	筋と運動 消化と吸収	運動ニューロンと筋電図 口腔での消化/胃・小腸・大腸での消化吸収
3	血液 循環	血液の成分と働き/血液の凝固と溶解/血液型と輸血 心臓の拍動とコントロール/心臓の活動電位と心電図/血圧の調節
4	感覚	感覚の性質と種類/体性感覚の特徴/感覚情報の伝達/感覚野/外皮/特殊感覚の構造と機能
5	神経系	神経系の分類/神経系の主な伝導路
6	呼吸	肺気量と換気量/肺泡及び組織におけるガス交換/血液中のO2とCO2の運搬/呼吸の調節
7	腎機能と排尿	尿の生成/尿の一般的性質/膀胱からの排尿の仕組み（排尿反射）
8	内分泌	内分泌器官の構造と機能/ホルモンの作用機序/ホルモンの分泌調節

9	体温	体熱の產生/体熱の放散/体温の調節/体温の変動
10	歯・口腔・顔面の感覚	口腔顔面領域の神経生理学／口腔顔面痛／口腔顔面領域の触圧覚・温度感覚
11	味覚と嗅覚	味覚/嗅覚
12	咬合と咀嚼・吸啜	下顎位/下顎の運動/顎反射/摂食行動/咀嚼能力/吸啜
13	嚥下と嘔吐	嚥下とは/嘔吐とは
14	発声・発語	発声機構の概要/声の生成/構音のメカニズム/歯および口腔の病態と構音
15	唾液	唾液の分泌機構/唾液の性状/成分と機能/唾液と疾患

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	病理学・口腔病理学		
必修選択	必修	(学則表記)	病理学・口腔病理学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	2	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・退行性病変(細胞・組織の変性・萎縮・壊死)および進行性病変(肥大・増生・化生・再生)を概説できる。 ・炎症の定義の説明および炎症の分類ができる。 ・口腔領域の疾患を列挙し、それぞれの病因と病態を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	醍醐　一也			実務経験	○
実務内容	救急クリニックで歯科医師として7年間勤務をした実務経験を基に、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	病因論 遺伝性疾患と奇形	内因・外因 遺伝/遺伝性疾患/先天異常
2	循環障害 代謝障害と退行性病変	循環障害とは/循環障害の種類 細胞障害/変性と物質代謝障害/萎縮/細胞死
3	増殖と修復	肥大と増生（過形成）/化生/再生と修復/創傷治癒/異物処理
4	炎症と免疫応答異常Ⅰ	炎症
5	炎症と免疫応答異常Ⅱ	免疫応答異常
6	腫瘍	腫瘍の発生/腫瘍の種類と性質/腫瘍の診断
7	歯の発育異常	歯の大きさ・歯数・歯の形・歯の構造・歯の萌出時期・歯の位置・咬合の異常
8	歯の損傷と着色・付着物・う蝕	歯の物理的損傷・化学的損傷/歯の着色/ブラークと歯石/う蝕

9	象牙質・歯髄複合体の病態	歯髄炎・歯髄の退行性変化/象牙質の増生・象牙質知覚過敏症
10	歯周組織の病変	根尖部歯周組織の病変/辺縁部歯周組織の病変/エプーリス/セメント質増生・セメント(質)粒
11	口腔粘膜の病変	口腔粘膜の病変
12	口腔領域の嚢胞と腫瘍	口腔領域の嚢胞/口腔領域の腫瘍
13	口腔癌・顎骨の病変	口腔癌/顎骨骨髓炎/腫瘍様病変/顎関節の病変
14	唾液腺の病変	流行性耳下腺炎/シェーグレン〈Sjogren〉症候群/唾石症/粘液嚢胞/唾液腺腫瘍
15	口腔領域の奇形（形成異常） 口腔組織の加齢変化	口腔と顔面の披裂/口腔の発育異常/口腔顎顔面に異常を来す奇形症候群 歯の硬組織・歯髄・歯周組織・顎骨・舌・口腔粘膜・唾液腺の変化

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	微生物学		
必修選択	必修	(学則表記)	微生物学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	2	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・微生物の感染機構と病原性を概説できる。 ・抗原・抗体およびサイトカインを説明できる。 ・微生物と口腔環境の関わりを説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	醍醐　一也			実務経験	○
実務内容	救急クリニックで歯科医師として7年間勤務をした実務経験を基に、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	疾病と微生物	疾病と微生物・免疫学/感染と感染症
2	微生物の病原性Ⅰ	微生物の分類/細菌の性状と病原性/主な病原性細菌
3	微生物の病原性Ⅱ	マイコプラズマ属/スピロヘータ/リケッチア/クラミジア
4	微生物の病原性Ⅲ	ウイルス/その他の微生物（真菌・原虫）
5	宿主防御機能と免疫Ⅰ	宿主防御機能
6	宿主防御機能と免疫Ⅱ	免疫機構
7	宿主防御機能と免疫Ⅲ	液性免疫/細胞性免疫/アレルギー（過敏症）
8	口腔微生物学Ⅰ	口腔細菌叢

9	口腔微生物学Ⅱ	デンタルプラーク
10	口腔感染症Ⅰ	う蝕/歯内感染症
11	口腔感染症Ⅱ	歯周病/その他の口腔感染症
12	化学療法Ⅰ	化学療法と化学療法薬
13	化学療法Ⅱ	主な化学療法薬の種類と特徴
14	院内感染対策と滅菌・消毒	口腔外感染症と院内感染症対策/滅菌・消毒の方法
15	細菌培養・顕微鏡観察	培養法/培地/顕微鏡観察/微生物を観察するための方法

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	薬理学		
必修選択	必修	(学則表記)	薬理学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	2	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・薬物の作用機序および薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 ・医薬品の分類および薬物の保存方法を説明できる。 ・服薬に関する一般的事項および対象者別の服薬指導を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％ 小テスト：20％ 授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	本間 篤			実務経験	○
実務内容	大手薬局にて薬剤師として5年勤務した実務経験を基に、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	薬物の作用	薬物療法の種類・薬理作用について
2	薬物動態	薬物の生体への働き
3	薬物の適用方法の種類と特徴	適用方法の種類/生物学的利用能
4	薬物の作用に影響を与える要因	薬効に影響する因子・生体の感受性/薬物の連用と併用/薬物相互作用
5	薬物の副作用・有害作用 医薬品を適用する際の注意	薬物の有害作用の分類と原因/副作用/有害作用の予知と回避 ライフステージと薬物/服薬指導
6	薬物の取り扱い 薬物と法律・薬物と医薬品	医薬品/処方せん/調剤と配合変化/薬物の保存方法 薬物に関する法律/日本薬局方/毒薬・劇薬の表示と保管
7	ビタミンとホルモン 末梢神経系に作用する薬物	ビタミンの分類/ホルモンの種類 末梢神経系作用薬
8	中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系に作用する薬物の種類

9	循環器系に作用する薬物 腎臓に作用する薬物	高血圧治療薬/不整脈治療薬/心不全治療薬/狭心症治療薬/脂質異常症（高血圧症） 腎臓の機能と生理/利尿薬
10	呼吸器系・消化器系・血液に作用する薬物	呼吸器系に作用する薬物/消化器系に作用する薬物/血液に作用する薬物/止血機構・血液に関連する薬物
11	免疫と薬・悪性腫瘍と薬・代謝性疾患治療薬	免疫に関連する薬物/抗悪性腫瘍薬/糖尿病治療薬/骨粗鬆症治療薬
12	炎症と薬 痛みと薬	炎症とは/抗炎症薬/解熱鎮痛薬 痛覚の発生と伝導/オピオイド系鎮痛薬/非オピオイド系鎮痛薬/神経障害性疼痛治療薬
13	局所麻酔薬 抗感染症薬	局所麻酔薬の作用機構/血管収縮薬の併用/適用法/生体に対する作用 感染症と抗感染症薬/抗感染症薬の作用と副作用/主な抗感染症薬
14	消毒に使用する薬 う蝕予防薬・歯内療法薬	消毒薬の作用と分類/主な消毒薬 フッ化物の臨床応用/歯髄の保存・根管治療・象牙質知覚過敏症に用いる薬物
15	歯周疾患治療薬・顎・口腔粘膜疾患と薬・漢方医学と薬物	歯周治療における薬物療法/急性炎症・歯周治療・口臭治療に使用する薬物/洗口薬 炎症性疾患・口腔粘膜疾患・顎関節症・口腔乾燥症・神経疾患に用いる薬/漢方医学・漢方薬とは

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	口腔衛生学Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	口腔衛生学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 保健生態学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・歯・口腔の基礎知識を習得し、口腔と全身の健康との関係を説明できる。 ・口腔清掃の意義および口腔清掃用具の種類と特徴、清掃方法の種類を列举し、説明できる。 ・う蝕と歯周疾患、その他歯科疾患の疫学的特性を概説できる。				
評価基準	期末テスト：70％ 小テスト：20％ 授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	口腔衛生学Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	三好 香織			実務経験	○
実務内容	歯科衛生士として、大学病院やクリニックにて8年間勤務した実務経験を基に、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯・口腔の健康と予防Ⅰ	歯・口腔の健康/歯・口腔の構造と機能(歯・口腔の構造)
2	歯・口腔の健康と予防Ⅱ	歯・口腔の構造と機能(歯・口腔の発生と成長・発育、歯・口腔の機能、口腔の健康と全身の健康)
3	歯・口腔の健康と予防Ⅲ	歯・口腔の付着物・沈着物
4	歯科疾患の疫学	う蝕の疫学/歯周病の疫学/歯の喪失の疫学/その他の疫学
5	口腔清掃Ⅰ	口腔清掃の意義/口腔清掃法
6	口腔清掃Ⅱ	機械的清掃法と用具
7	口腔清掃Ⅲ	不適切な口腔清掃による為害作用/歯磨剤と洗口液・洗口剤
8	う蝕の予防Ⅰ	う蝕発生と進行のメカニズム/う蝕の分類と症状/う蝕の発生要因

9	う蝕の予防Ⅱ	う蝕活動性試験/う蝕の予防方法
10	フッ化物によるう蝕予防Ⅰ	わが国のフッ化物応用/フッ化物の一般性状と用語/人間生態系におけるフッ化物
11	フッ化物によるう蝕予防Ⅱ	フッ化物摂取量とその基準/フッ素の代謝/フッ化物の毒性
12	フッ化物によるう蝕予防Ⅲ	フッ化物応用によるう蝕予防方法/フッ化物のう蝕予防メカニズム
13	歯周疾患の予防Ⅰ	歯周疾患の症状と分類/歯周疾患の発症機序
14	歯周疾患の予防Ⅱ	歯周疾患の全身に与える影響/歯周疾患の予防手段と処置
15	口腔内疾患・異常の予防	不正咬合の予防/口臭の予防/その他の歯科疾患・異常の予防

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	口腔衛生学Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	口腔衛生学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1保健生態学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・各ライフステージごとの口腔保健施策を概説できる。 ・介護保険制度の概要および介護予防について説明できる。 ・災害時の保健医療対策を概説できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	口腔衛生学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	三好　香織			実務経験	○
実務内容	歯科衛生士として、大学病院やクリニックにて8年間勤務した実務経験を基に、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	母子保健Ⅰ	母子保健の目的および概要/母子保健/小児保健
2	母子保健Ⅱ	歯・口腔について/母子保健の現状と今後
3	学校保健Ⅰ	学校保健の意義と概要/学校保健の活動と組織
4	学校保健Ⅱ	学校歯科保健
5	成人保健Ⅰ	成人保健の意義と特徴/生活習慣病
6	成人保健Ⅱ	成人保健（生活習慣病）対策/成人歯科保健
7	産業保健Ⅰ	産業保健の概念/職業性疾病
8	産業保健Ⅱ	産業保健管理/産業保健活動

9	高齢者保健Ⅰ	高齢者保健の現状と意義/高齢者保健に関する公的制度
10	高齢者保健Ⅱ	介護保険制度/要支援・要介護高齢者に対する口腔健康管理の有用性
11	精神保健Ⅰ	精神保健および精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）/ライフステージにおける精神保健
12	精神保健Ⅱ	精神保健の動向/精神保健福祉にかかわる行政機関および専門職/精神障害者の歯科保健
13	災害時の歯科保健Ⅰ	大規模災害時の保健医療対策/被災地での歯科保健活動
14	災害時の歯科保健Ⅱ	災害時の個人識別における歯科衛生士の役割
15	国際保健	国際保健の概要(医療全体)/国際歯科保健活動の現状

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	衛生学・公衆衛生学		
必修選択	必修	(学則表記)	衛生学・公衆衛生学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	2	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 保健生態学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得する。				
到達目標	- 健康の定義および健康づくりの理念を説明できる。 - 人間と環境との関係および健康と環境との関係を説明できる。 - 地域保健の概念および地域保健活動の基本的な進め方を概説できる。				
評価基準	期末テスト：70％ 小テスト：20％ 授業態度：10％				
認定条件	- 出席が総時間数の3分の2以上ある者 - 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	三好 香織			実務経験	○
実務内容	歯科衛生士として、大学病院やクリニックにて8年間勤務した実務経験を基に、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	総論	健康の概念/予防医学の概念
2	疫学	疫学の定義および概要/疫学の方法/臨床疫学
3	人口Ⅰ	人口の動向/人口動態統計①
4	人口Ⅱ	人口動態統計②/生命表
5	健康と環境Ⅰ	環境の概念/空気・水と健康
6	健康と環境Ⅱ	放射線と健康/住居・衣服と健康/地球環境と健康
7	健康と環境Ⅲ	公害と健康への影響/廃棄物処理
8	感染症Ⅰ	感染症の成り立ち/感染症の予防

9	感染症Ⅱ	主な感染症の動向①：1類感染症・2類感染症・3類感染症・4類感染症・5類感染症
10	感染症Ⅲ	主な感染症の動向②：1類感染症・2類感染症・3類感染症・4類感染症・5類感染症
11	食品と健康Ⅰ	食品保健
12	食品と健康Ⅱ	栄養と健康
13	地域保健・公衆衛生Ⅰ	地域社会と地域保健の概念/地域保健の組織
14	地域保健・公衆衛生Ⅱ	地域保健の新たな概念/地域保健活動の進め方
15	地域保健・公衆衛生Ⅲ	健康づくり対策と地域歯科保健

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	歯科衛生士概論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科衛生士概論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科衛生士業務を実践して人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する。				
到達目標	・ 歯科衛生業務の構成要素を概説できる。 ・ 歯科衛生業務の実践におけるコミュニケーション力の必要性を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科衛生士概論Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小林　聖子			実務経験	○
実務内容	大学病院や病院で歯科衛生士として29年間勤務をした実務経験を基に、保健医療人としての基本的態度および論理的思考法の基礎を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯科衛生学の概要	歯科衛生学とは/歯科衛生と健康/歯科衛生活動の対象/歯科衛生活動の領域
2	歯科衛生の歴史	歯科衛生の誕生と経緯/歯科衛生の背景/歯科衛生業務の現状/歯科衛生士の役割と展望
3	歯科衛生活動のための理論	予防の概念/歯科衛生の科学的思考による考え方
4	歯科衛生過程Ⅰ	歯科衛生過程とは/歯科衛生過程活用の利点
5	歯科衛生過程Ⅱ	歯科衛生過程活用の流れ
6	歯科衛生士法と歯科衛生業務Ⅰ	歯科衛生士と歯科衛生士法
7	歯科衛生士法と歯科衛生業務Ⅱ	歯科衛生士の役割
8	歯科衛生士法と歯科衛生業務Ⅲ	関連法規/安全管理

9	歯科衛生士と医療倫理Ⅰ	倫理の必要性/医の倫理と患者の権利
10	歯科衛生士と医療倫理Ⅱ	歯科衛生士と倫理/対象の自己決定権の尊重
11	歯科衛生士と医療倫理Ⅲ	インフォームド・コンセント/倫理の適用
12	歯科衛生士の活動と組織Ⅰ	歯科衛生活動の現況
13	歯科衛生士の活動と組織Ⅱ	歯科衛生活動の場
14	歯科衛生士の活動と組織Ⅲ	歯科衛生士と組織
15	海外における歯科衛生士	海外の歯科衛生士の歩み/海外における歯科衛生士の現状

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床歯科総論		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床歯科総論		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	A:歯科臨床概論 第2版 B:歯科衛生学シリーズ「臨床検査」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	臨床歯科医学の各論をより深く理解するため、臨床歯科医学の概要についての基本的知識を習得する。また、医療人としての倫理、患者への対応法、歯科疾患の診断および歯科衛生士業務の実施に必要な基本的検査(口腔内検査・口腔機能検査・画像検査)、消毒法・滅菌法について習得する。				
到達目標	・ 歯・口腔組織を構成している組織について説明できる。 ・ 歯科保存治療、補綴治療、小児歯科治療、歯科矯正治療、口腔外科治療の概要を説明できる。 ・ 歯科診療の流れと消毒・滅菌法について理解し、説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％ 小テスト：20％ 授業態度：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	萩 名子			実務経験	○
実務内容	公的機関内歯科診療室4年、一般開業医勤務医11年、自院14年勤務 歯科医師として歯科大学にて2年勤務した実務経験を基に、臨床歯科医学の概要についての基本的知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯科診療とは 歯科診療所	歯科診療の場/歯科診療の場と関わる人々/歯科診療の対象者 歯科診療所のスタッフ/歯科診療所の紹介/歯科診療所における安全管理
2	歯科診療所における業務	歯科診療所全体に関わる業務/歯科診療所における歯科診療と歯科衛生業務/歯科診療所の1日/保険医療機関(歯科診療所)での業務
3	診査・検査・前処置Ⅰ	バイタルサインの確認
4	診査・検査・前処置Ⅱ	口腔内の観察・検査
5	診査・検査・前処置Ⅲ	画像検査
6	診査・検査・前処置Ⅳ	一般臨床検査
7	診査・検査・前処置Ⅴ	痛みのコントロール
8	小児歯科	小児歯科/口腔の先天異常/口腔機能の発達/う蝕予防処置

9	歯科矯正	不正咬合と矯正歯科医療/矯正歯科治療の概要
10	口腔外科	口腔外科/外傷の治療/抜歯/口腔粘膜疾患の処置
11	歯科保存	歯科保存/象牙質知覚過敏症/歯冠部う蝕/根面う蝕/歯内療法/歯のホワイトニング
12	歯周治療	歯周治療/歯周病と全身疾患/歯周基本治療/歯周外科治療/メンテナンス
13	歯科補綴	歯科補綴/義歯の製作
14	障害者歯科・高齢者歯科Ⅰ	障害者歯科/高齢者歯科/摂食嚥下障害への対応
15	障害者歯科・高齢者歯科Ⅱ	全身疾患への対応/周術期の対応/歯科訪問診療

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保存修復学		
必修選択	必修	(学則表記)	保存修復学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する。さらに、保存修復治療で用いる器材、薬剤、材料についての基礎知識を習得し、臨床現場において的確な取り扱いおよび対応ができるよう理解を深める。				
到達目標	・歯の硬組織疾患の種類と原因、予防法、処置法を説明できる。 ・修復法の種類（直接修復・間接修復）と特徴を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柳澤　英明			実務経験	○
実務内容	歯科医院の院長として8年間勤務した実務経験を基に、臨床現場において的確な取り扱いおよび対応ができるよう知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯の保存療法の種類	歯の保存療法と歯科保存学/対象となる疾患
2	歯および歯周組織の検査	歯および歯周組織検査の基礎知識と前準備/医療面接/自覚的・他覚的情報の収集
3	保存修復の概要Ⅰ	保存修復学とは/窩洞と保存修復治療
4	保存修復の概要Ⅱ	保存修復法の種類/保存修復治療の準備/歯の切削・窩洞形成/歯髄の保護
5	直接法修復Ⅰ	直接法修復とは/コンポジットレジン修復①
6	直接法修復Ⅱ	コンポジットレジン修復②
7	直接法修復Ⅲ	セメント修復
8	歯の漂白Ⅰ	歯の着色・変色の原因と処置法/歯の漂白の適応症と禁忌症/歯の漂白法の種類と特徴

9	歯の漂白Ⅱ	歯の漂白法の臨床的対応と用いる器材・薬剤/歯の漂白治療後の注意
10	間接法修復Ⅰ	間接法修復とは/インレー修復およびアンレー修復とは/メタルインレー修復
11	間接法修復Ⅱ	セラミック/ハイブリットセラミック(レジン)インレー修復/ CAD/CAMインレー修復
12	間接法修復Ⅲ	ベニア修復（ラミネートベニア修復）
13	間接法修復Ⅳ	合着材および接着材
14	補修修復	補修修復とは/再研磨/補修修復の適応症と術式
15	保存修復における歯科衛生士の役割	保存修復治療に使用する材料・薬剤の管理/保存修復治療における患者への説明と指導

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	歯内療法学		
必修選択	必修	(学則表記)	歯内療法学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する。さらに、歯内療法で用いる器材、薬剤、材料についての基礎知識を習得し、臨床現場において的確な取り扱いおよび対応ができるよう理解を深める。				
到達目標	・歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状・検査法を説明できる。 ・歯髄の保存療法（覆髄法）を説明できる。 ・根管治療に用いる器材の使用法および根管充填法について説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柳澤　英明			実務経験	○
実務内容	歯科医院の院長として8年間勤務した実務経験を基に、臨床現場において的確な取り扱いおよび対応ができるよう知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯内療法学の概要	歯内療法学とは/象牙質知覚過敏症
2	歯髄疾患とはⅠ	概要/原因/分類と症状
3	歯髄疾患とはⅡ	歯髄疾患の処置方針
4	根尖性歯周疾患Ⅰ	概要/原因/分類と症状/根尖性歯周疾患の処置方針
5	根尖性歯周疾患Ⅱ	歯内療法特有の検査と診断/抜髄法/感染根管治療の術式の概要
6	歯髄保存療法Ⅰ	歯髄保存療法とは/歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬
7	歯髄保存療法Ⅱ	覆髄法/間接覆髄法/直接覆髄法/暫間的間接覆髄法（IPC法）
8	歯髄除去療法	歯髄除去療法とは/生活断髄法（生活歯髄切断法）/抜髄法（麻酔抜髄法）

9	根管治療・根管充填Ⅰ	根管治療の概要/根管治療の術式
10	根管治療・根管充填Ⅱ	根管充填/根未完成歯の根管処置
11	外科的歯内療法Ⅰ	外科的歯内療法とは/外科的歯内療法の術式①
12	外科的歯内療法Ⅱ	外科的歯内療法の術式②
13	歯の外傷	歯の外傷とは/歯の外傷の分類と処置/歯の保存液を用いた脱離歯の保存法
14	歯内療法における安全対策	器具の根管内破折/根管治療時の根管壁穿孔/皮下気腫/根管治療用器具の誤嚥・誤飲/皮膚等への薬剤付着時の対処法
15	歯内療法における歯科衛生士の役割	歯内療法に使用する器材、薬剤の管理/歯内療法処置における患者への説明と指導

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	歯周治療学		
必修選択	必修	(学則表記)	歯周治療学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯周病学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する。さらに、歯周疾患と全身疾患との関わりを学び、歯周疾患の治療のみならず、予防の重要性や臨床現場における歯科衛生士の役割の重要性を深く理解する。				
到達目標	・歯周病の種類と症状および歯周治療の流れを説明できる。 ・歯周初期治療の術式と適応症、歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。 ・歯周治療後の再評価および歯周治療後のメンテナンス（SPT）について説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柳澤　英明			実務経験	○
実務内容	歯科医院の院長として8年間勤務した実務経験を基に、歯周疾患の治療のみならず、予防の重要性や臨床現場における歯科衛生士の役割の重要性を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯周治療の基礎知識Ⅰ	歯周治療とは/正常な歯周組織の構造と機能
2	歯周治療の基礎知識Ⅱ	歯周病の分類と原因①
3	歯周治療の基礎知識Ⅲ	歯周病の分類と原因②
4	歯周治療の実践Ⅰ	歯周治療の進め方
5	歯周治療の実践Ⅱ	歯周病の検査
6	歯周治療の実践Ⅲ	歯周基本治療
7	歯周治療の実践Ⅳ	歯周外科治療①：歯周外科治療の目的と分類/治療後の治癒形態/用いる器材
8	歯周治療の実践Ⅴ	歯周外科治療②：種々の歯周外科治療

9	歯周治療の実践Ⅵ	歯周治療としての口腔機能回復治療/メンテナンス
10	歯周治療における歯科衛生士の業務Ⅰ	歯周治療における歯科衛生士の役割①：歯周治療の進め方/歯周病検査・診断時の補助
11	歯周治療における歯科衛生士の業務Ⅱ	歯周治療における歯科衛生士の役割②：リスクファクターなどに対する指導
12	歯周治療における歯科衛生士の業務Ⅲ	歯周治療における歯科衛生士の役割③：スケーリング・ルートプレーニング
13	歯周治療における歯科衛生士の業務Ⅳ	歯周治療における歯科衛生士の役割④：歯周外科治療
14	歯周治療における歯科衛生士の業務Ⅴ	歯周治療における歯科衛生士の役割⑤：口腔機能回復治療/メンテナンス/SPT
15	歯周治療における歯科衛生士の業務Ⅵ	歯周治療における歯科衛生士の役割⑥：診療室と器具・器材の管理

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	歯科補綴学		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科補綴学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と、歯列の一部あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。		
到達目標	・補綴装置の種類と適応を説明できる。 ・補綴治療の臨床ステップおよび技工操作を概説できる。 ・補綴処置後におけるメンテナンスの重要性を説明できる。		
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	歯科衛生士		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	柳澤　英明	実務経験	○
実務内容	歯科医院の院長として8年間勤務した実務経験を基に、歯冠修復と咬合回復の治療法を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	補綴歯科治療の基礎Ⅰ	歯科補綴の概要①：補綴歯科治療の意義と目的/歯の欠損に伴う生理的变化/補綴歯科治療の方法と補綴装置①
2	補綴歯科治療の基礎Ⅱ	歯科補綴の概要②：補綴歯科治療の方法と補綴装置②/補綴歯科治療における歯科衛生士の役割
3	補綴歯科治療の基礎Ⅲ	補綴歯科治療の基礎知識：歯列と咬合/補綴学的基準平面/口腔の機能/顎関節の構造・機能と形態
4	補綴歯科治療の実践と歯科衛生士の役割Ⅰ	補綴歯科治療における検査①
5	補綴歯科治療の実践と歯科衛生士の役割Ⅱ	補綴歯科治療における検査②
6	補綴歯科治療の実践と歯科衛生士の役割Ⅲ	クラウン・ブリッジ治療①
7	補綴歯科治療の実践と歯科衛生士の役割Ⅳ	クラウン・ブリッジ治療②
8	補綴歯科治療の実践と歯科衛生士の役割Ⅴ	有床義歯治療①：全部床義歯治療の概要/治療の流れと診療の補助

9	補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 VI	有床義歯治療②：全部床義歯治療に関連する併発症とその対応
10	補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 VII	有床義歯治療③：部分床義歯治療の概要/治療の流れと診療の補助
11	補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 VIII	有床義歯治療④：部分床義歯治療に関連する併発症とその対応
12	補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 IX	インプラント治療①：インプラント治療の概要/治療の流れと診療の補助①
13	補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 X	インプラント治療②：治療の流れと診療の補助②/治療に関連する併発症とその対応
14	補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 XI	特殊な口腔内装置を用いる治療
15	補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 XII	補綴歯科治療における器材の管理

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	口腔外科学・歯科麻酔学		
必修選択	必修	(学則表記)	口腔外科学・歯科麻酔学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	2	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	口腔外科と歯科麻酔において、歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法および治療法を理解し、さらに、局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔および全身管理についての基礎知識を習得する。				
到達目標	・口腔領域に生じる各種疾患を分類し、概説できる。 ・抜歯の適応と禁忌を概説、術後の注意を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柳澤　英明			実務経験	○
実務内容	歯科医院の院長として8年間勤務した実務経験を基に、口腔外科と、局所麻酔・精神鎮静法・全身麻酔および全身管理についての基礎知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	顎口腔領域の疾患Ⅰ	口腔外科学の概要/先天異常と発育異常
2	顎口腔領域の疾患Ⅱ	損傷
3	顎口腔領域の疾患Ⅲ	口腔粘膜疾患
4	顎口腔領域の疾患Ⅳ	炎症
5	顎口腔領域の疾患Ⅴ	嚢胞/腫瘍および腫瘍類似性疾患
6	顎口腔領域の疾患Ⅵ	顎関節疾患/唾液腺疾患
7	顎口腔領域の疾患Ⅶ	神経性疾患/血液疾患/口腔心身症
8	口腔外科診療の実践Ⅰ	診察と診断/歯科診療で問題となる全身疾患/口腔外科手術の準備

9	口腔外科診療の実際Ⅱ	手術の基本手技/口腔外科小手術①
10	口腔外科診療の実際Ⅳ	口腔外科小手術②
11	口腔外科診療の実際Ⅲ	口腔外科小手術③
12	歯科治療と麻酔Ⅰ	歯科麻酔学と患者管理/局所麻酔
13	歯科治療と麻酔Ⅱ	精神鎮静法/全身麻酔/緊急時の対応
14	歯科衛生士が担う手術期の口腔健康管理①	周術期における口腔健康管理（各論）
15	歯科衛生士が担う手術期の口腔健康管理②	周術期における口腔健康管理（総論）

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	歯科予防処置論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科予防処置論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	2	60
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」		出版社	医歯薬出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、口腔衛生管理を目的とした歯周病予防処置を安全・的確に行うための知識、技術および態度を習得する。		
到達目標	・手用スケーラーについての特徴・形態・用途を理解し、シックルスケーラーの正しい把持法と運動方法が行える。 ・ファントム上においての、4原則を守った安全なスケーリング操作ができる。 ・デンタルミラーおよびエキスポローラーの用途を説明でき、また、基本的操作ができる。		
評価基準	期末テスト：70％　小テスト(実技テスト)：20％　提出物：10％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	歯科衛生士		
関連科目	歯科予防処置論Ⅱ～Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	柳澤　英明	実務経験	○
実務内容	歯科医院の院長として8年間勤務した実務経験を基に、口腔衛生管理を目的とした歯周病予防処置を安全・的確に行うための知識、技術および態度を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯科予防処置論で学ぶこと(講義)	歯科予防処置・歯周病予防処置とは/スケーラーについて
2	歯周病とは(講義)	歯周病の分類/歯肉炎と歯周炎の臨床的特徴・進行プロセス/歯周病が影響を与える疾患
3	スケーリングの基本 (講義・実習)	姿勢/ポジション/スケーラーについて(構成・把持法・固定・運動)
4	手用スケーラーの操作法 (講義・実習)	デンタルミラーについて/シックルタイプスケーラーの操作方法
5	シックルスケーラー操作 1群 (講義・実習)	シックルスケーラー操作 1群
6	シックルスケーラー操作 2群 (講義・実習)	シックルスケーラー操作 2群 および 1群 復習
7	シックルスケーラー操作 3群 (講義・実習)	シックルスケーラー操作 3群 および 2群 復習
8	シックルスケーラー操作 4群 (講義・実習)	シックルスケーラー操作 4群 および 3群 復習

9	シックルスケーラー操作 5群 (講義・実習)	シックルスケーラー操作 5群 および 4群 復習
10	シックルスケーラー操作 6群 (講義・実習)	シックルスケーラー操作 6群 および 5群 復習
11	シックルスケーラー操作 7・8群 (講義・実習)	シックルスケーラー操作 7・8群 および 6群 復習
12	シックルスケーラー操作 9・10群 (講義・実習)	シックルスケーラー操作 9・10群 および 7・8群 復習
13	シックルスケーラー操作 11・12群 (講義・実習)	シックルスケーラー操作 11・12群 および 9・10群 復習
14	シックルスケーラー操作総復習 (実習)	シックルスケーラー操作 11・12群 復習/シックルスケーラー操作総復習
15	シックルスケーラー操作 実技テスト	シックルスケーラー操作 実技テスト

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	う蝕予防処置Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	う蝕予防処置Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	30
使用教材	A:歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 B:歯科衛生学シリーズ「保健生態学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科衛生士としてう蝕の抑制または予防をし、さらに人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。				
到達目標	・う蝕についての基礎知識、歯および唾液とフッ化物の基礎知識を習得し、フッ化物物の働きについて説明できる。 ・う蝕予防処置の方法および歯科衛生士の役割を理解し、説明できる。 ・フッ化物局所応用の方法および安全性について理解し、正しい取り扱いができる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　提出物：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	う蝕予防処置Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小林　聖子			実務経験	○
実務内容	大学病院や病院で歯科衛生士として29年間勤務をした実務経験を基に、専門的な知識、技術および態度を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	う蝕予防処置の概要 う蝕の基礎知識Ⅰ(講義)	う蝕予防処置法とは/う蝕の分類
2	う蝕の知識Ⅱ(講義)	う蝕の原因
3	食品とう蝕誘発性(講義)	食品とう蝕誘発性/代用甘味料
4	う蝕に関する検査Ⅰ(講義)	う蝕活動性とは/う蝕活動性試験の意義、条件、目的
5	う蝕に関する検査Ⅱ(講義)	う蝕活動性試験の原理、方法、判定の原理、方法、判定
6	う蝕に関する検査Ⅲ(実習)	う蝕活動性試験(RDテスト、CAT21バフ)
7	フッ化物の基礎知識(講義)	フッ化物の基礎知識/フッ化物の毒性
8	フッ化の中毒量算出(講義)	フッ化の中毒量算出

9	フッ化物の応用Ⅰ(講義)	フッ化物歯面塗布①: 塗布時期と対象歯/製剤
10	フッ化物の応用Ⅱ(講義)	フッ化物歯面塗布②: 術式
11	フッ化物の応用Ⅲ(講義)	フッ化物洗口
12	フッ化物の応用Ⅳ(講義)	フッ化物配合歯磨剤
13	フッ化物の応用Ⅴ(講義)	フッ化ジアンミン銀塗布法/フッ化物バーニッシュ/ライフステージ別のフッ化物局所応用
14	小窩裂溝填塞法Ⅰ	小窩裂溝填塞法①: 適応歯/填塞材/術式
15	小窩裂溝填塞法Ⅱ	小窩裂溝填塞法②: 器具・薬剤の取り扱いと管理方法/填塞後の指導/注意事項

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	歯科保健指導Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科保健指導Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」		出版社	医歯薬出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
到達目標	・ 歯科保健指導の意義と特性を説明できる。 ・ 口腔衛生管理に関する清掃用具を列挙し、それぞれの特徴および使用法が説明できる。 ・ 口腔清掃方法の選択と説明ができる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト(実技テスト)：20％　提出物：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科保健指導Ⅱ～Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	三好　香織			実務経験	○
実務内容	歯科衛生士として、大学病院やクリニックにて8年間勤務した実務経験を基に、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	予防の概念とわが国の健康施策 歯科保健指導論で学ぶこと(講義)	予防の概念/わが国の健康推進施策/歯科保健指導とは
2	口腔の基礎知識(講義)	口腔・口腔周辺の構造/歯周組織/歯冠と歯根の形態/口腔の機能/摂食嚥下の仕組み
3	口腔内の付着物・沈着物 (講義)	口腔内の付着物・沈着物/歯垢染色法
4	保健行動支援のための基礎知識Ⅰ (講義)	コミュニケーションスキル/行動変容に関連する理論①
5	保健行動支援のための基礎知識Ⅱ (講義)	行動変容に関連する理論②/行動変容を促す理論の実践
6	口腔衛生管理に関わる指導Ⅰ (講義)	ブラッシング（歯ブラシ、歯磨剤）
7	口腔衛生管理に関わる指導Ⅱ (講義)	ブラッシング（歯ブラシのわき腹を用いる方法）
8	口腔衛生管理に関わる指導Ⅲ (講義)	ブラッシング（歯ブラシの毛先を用いる方法）

9	口腔衛生管理に関わる指導Ⅳ (講義)	その他の清掃方法(デンタルフロス、歯間ブラシ、タフトブラシ、粘膜ブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシ、 義歯用ブラシ、介助用口腔衛生用品)
10	口腔衛生管理に関わる指導Ⅴ (講義)	洗口液・洗口剤/義歯洗浄剤、義歯安定剤/保湿剤
11	ブラッシング(実習)	ブラッシング(歯ブラシのわき腹を用いる方法、歯ブラシの毛先を用いる方法)
12	ブラッシング(相互実習)	染め出し/術者磨き
13	フロッシング(実習)	フロッシング
14	フロッシング(相互実習)	フロッシング
15	ブラッシング、フロッシング実技 テスト	ブラッシング、フロッシング実技テスト

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	食生活・栄養指導		
必修選択	選択	(学則表記)	食生活・栄養指導		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能3 栄養学」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	歯科衛生士が食生活指導を行うことの意義と役割を理解し、さらに、口腔疾患と食生活との関係性も踏まえた適切な支援を行うために必要な専門的知識、技術および態度を習得する。				
到達目標	・国民の食生活の現状と健康との関係を理解し、健康を維持・増進するうえで必要な食生活指導ができる。 ・ライフステージ別の栄養摂取および食生活について理解し、それぞれに必要な食生活指導や改善方法をアドバイスできる。 ・口腔疾患および機能障害に応じた食生活指導の立案・アドバイスができる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	栄養学／歯科保健指導Ⅰ～Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	喜多野　直子			実務経験	○
実務内容	歯医療機関にて病院栄養士として2年勤務した実務経験を基に、歯科衛生士による食生活指導の意義や役割、必要な専門的知識や技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	食事と食品Ⅰ	食事の基本/食事バランスガイド/食品群の分類と特徴①
2	食事と食品Ⅱ	食品群の分類と特徴②
3	食事と食品Ⅲ	食品の機能/食品の表示
4	食事と食品Ⅳ	食品の調理
5	ライフステージと栄養Ⅰ	妊娠期における栄養/授乳期における栄養
6	ライフステージと栄養Ⅱ	乳児期における栄養
7	ライフステージと栄養Ⅲ	幼児期における栄養
8	ライフステージと栄養Ⅳ	学童期における栄養/思春期における栄養

9	ライフステージと栄養Ⅴ	成人期における栄養①
10	ライフステージと栄養Ⅵ	成人期における栄養②
11	ライフステージと栄養Ⅶ	高齢期における栄養①
12	ライフステージと栄養Ⅷ	高齢期における栄養②
13	栄養ケア・マネジメントⅠ	チームアプローチと栄養ケア・マネジメント/栄養スクリーニング
14	栄養ケア・マネジメントⅡ	栄養アセスメント
15	栄養ケア・マネジメントⅢ	栄養ケア計画/実施とモニタリング/評価

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	歯科診療補助実習Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科診療補助実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	30
使用教材	A:歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 B:歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 C:歯科衛生学シリーズ「歯科機器」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識、技術および態度を習得する。				
到達目標	・ 歯科診療補助における歯科衛生士の役割とチーム医療の必要性を説明できる。 ・ フォーハンドシステムの基本動作および診療に応じた器具の受け渡しとバキューム操作ができる。 ・ 各種印象材の練和と概形印象採得および模型材料の取り扱いができる。				
評価基準	期末テスト：70％ 小テスト(実技テスト)：20％ 提出物：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科診療補助実習Ⅱ～Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	中川 美希			実務経験	○
実務内容	歯科衛生士として一般歯科開業医にて13年勤務した実務経験を元に、専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識、技術および態度を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	歯科診療補助の概念（講義）	診療の補助とは
2	医療安全と感染予防Ⅰ（講義）	医療安全
3	医療安全と感染予防Ⅱ（講義）	感染予防
4	医療安全と感染予防Ⅲ（講義）	滅菌と消毒①
5	医療安全と感染予防Ⅳ（講義）	滅菌と消毒②/医療廃棄物の取り扱い
6	医療安全と感染予防Ⅴ（実習）	身だしなみ/手指消毒/グローブ装着・脱着/滅菌物の取り扱い
7	歯科診療における基礎知識Ⅰ（講義）	歯科診療室の基礎知識/歯科診療所における受診の流れ
8	歯科診療における基礎知識Ⅰ（実習）	ユニット操作方法/患者誘導

9	共同動作Ⅰ（講義）	共同動作の概念/ポジショニング/ライティング/フォーハンデッドデンティストリー
10	共同動作Ⅱ（講義）	バキュームテクニック/スリーウェイシリンジテクニック
11	共同動作Ⅲ（実習）	ポジショニング、ライティング、バキュームテクニック
12	共同動作Ⅳ（実習）	バキュームテクニック/スリーウェイシリンジテクニック
13	衛生材料（講義・実習）	衛生材料の種類と用途/衛生材料作製
14	印象採得(講義)	アルジネート印象材による概形印象採得（片顎印象・全顎印象）
15	印象採得(実習)	アルジネート印象材の取り扱い

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	歯科診療補助実習Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科診療補助実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	2	60
使用教材	A:歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 B:歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 C:歯科衛生学シリーズ「歯科機器」			出版社	医歯薬出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識、技術および態度を習得する。		
到達目標	・ 歯科治療で使用される主要歯科材料の種類、基本的性質を理解し、標準的な使用法を習得する。 ・ 保存治療において必要な治療手順が説明でき、薬剤および器材の準備と取り扱いができる。 ・ ラバーダム防湿の手順および使用器材の取り扱いおよび装着ができる。		
評価基準	期末テスト：70％　小テスト(実技テスト)：20％　提出物：10％		
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者		
関連資格	歯科衛生士		
関連科目	歯科診療補助実習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	中川　美希	実務経験	○
実務内容	歯科衛生士として一般歯科開業医にて13年勤務した実務経験を元に、専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識、技術および態度を教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	寒天印象採得(講義・実習)	寒天印象材の基礎知識/寒天アルジネート連合印象採得
2	合成ゴム質印象材・その他印象材(講義・実習)	ゴム質印象材・その他印象材の基礎知識と取り扱い
3	模型の作製(講義)	石膏の基礎知識/練和
4	模型の作製(実習)	石膏の練和・注入
5	片顎印象採得 相互実習(実習)	片顎印象採得・石膏注入
6	全顎印象採得 相互実習(実習)	全顎印象採得・石膏注入
7	合着材・接着剤Ⅰ(講義)	合着材・接着剤の基礎知識/各種セメントの取り扱い・練和の基本
8	合着材・接着剤Ⅱ(実習)	各種セメントの取り扱い・練和法/筆積法・混和法

9	仮封材・仮着材Ⅰ(講義)	仮封材・仮着材の基礎知識/セメント系の取り扱い・練和法
10	仮封材・仮着材Ⅱ(実習)	レジン系仮封材・水硬性仮封材・テンポラリーストッピングの取り扱い
11	ワックス(講義・実習)	ワックスの種類と用途/パラフィンワックスの取り扱いと咬合採得
12	ラバーダム防湿Ⅰ(講義)	ラバーダム防湿の基礎知識/ラバーダム防湿用器具の取り扱い
13	ラバーダム防湿Ⅱ(実習)	ラバーダム防湿 装着実習
14	隔壁・歯間分離(講義・実習)	隔壁および歯間分離の基礎知識/隔壁・歯間分離器材の取り扱い
15	歯肉圧排(講義・実習)	歯肉圧排の基礎知識/歯肉圧排糸を用いた歯肉圧排の手順

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	7つの習慣Ⅰテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)			出版社	FCEエデュケーション

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分を身につける。				
到達目標	・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	日下 仁美			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	「未来デザインプログラム」とは何か学ぶ 夢のスケッチブックの使い方を学ぶ
2	SANKOワークコンピテンス	SANKOワークコンピテンスの理解を深める
3	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
4	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
5	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
6	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ
7	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
8	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
9	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ

10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なことは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的成功）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	7つの習慣Jテキスト 夢のスケッチブック（WEBアプリ）			出版社	FCEエデュケーション

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分を身につける。				
到達目標	・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	日下 仁美			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
2	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
3	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
4	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
5	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを学ぶ
6	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
7	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
8	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
9	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する

10	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
11	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
12	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
13	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
14	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
15	2年生に向けて	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ペン字		
必修選択	選択	(学則表記)	ペン字		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	歯科衛生士科	1	30
使用教材	・3級合格のポイント ・あなたも書き文字美人に きれいな文字の書きかた			出版社	・日本習字普及協会 ・二玄社

科目の基礎情報②

授業のねらい	字に関する、きれいに書く技術・知識を身につける。				
到達目標	履歴書に誤字脱字なく、読みやすい字を書くことができる。 基本的なビジネス文書（メモなど）を読みやすく書くことができる。 正しく書くための、知識を説明できるようになる。				
評価基準	テスト（小テスト含む）60％・提出物30％・授業態度10％				
認定条件	出席が総授業時間の3分の2以上である者 成績評価が2以上の者				
関連資格	硬筆書写技能検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	倉林 和美			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ひらがなの基本①	授業の流れ、到達目標、評価、用具の説明 ひらがなの基本①
2	ひらがなの基本②	ひらがなの書き方②
3	カタカナ、アルファベット、 数字 筆順	カタカナ、数字、アルファベットの書き方 正しい筆順で文字を書き、字形を整える
4	漢字	基本点画 字形の整え方
5	都道府県名 日常書式①	都道府県、県庁所在地名 名前の書き方
6	日常書式②	あて名書き はがきの通信文、手紙
7	履歴書	履歴書の書き方
8	総復習	ひらがな、カタカナ、漢字の総復習をする 実習や就職活動で必要になる書類の文字の練習をする
9	電話対応	電話対応で聞き取った内容を読める字で書けるようにする
10	部首・行書・楷書	楷書と行書の違い・間違えやすい部首の復習
11	文書作成①	送付状の作成方法について学ぶ
12	文書作成②	お礼状の作成方法について学ぶ
13	実習日誌の書き方について	実習日誌の書き方についてポイントを学ぶ
14	模擬テスト 期末テスト	模擬テストを振り返ってポイントを確認する 自分の注意している点について振り返る
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ